

研究課題	新潟市における慢性閉塞性肺疾患の問題点と地域医療連携に関する研究
支援番号	GC01520163
研究事業期間	平成 28 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日
助成金総額	1,410,000 円
研究代表者 (所属機関)	大嶋 康義 (新潟大学大学院 医歯学総合研究科 呼吸器・感染症内科学分野)
研究分担者 (所属機関)	大平徹郎 (国立病院機構 西新潟中央病院 呼吸器内科)・横田樹也 (横田内科医院)・坂井邦彦 (新潟臨港病院 呼吸器内科)・森谷梨加・藤戸信宏 (新潟大学大学院 医歯学総合研究科 呼吸器・感染症内科)
研究キーワード	慢性閉塞性肺疾患、 COPD 連携ファイル、地域医療連携、多施設共同研究、包括的アプローチ
研究実績の概要	<p>慢性閉塞性肺疾患 (COPD) は、世界における死亡原因の第 4 位であり、この疾患を予防、治療することは、公衆衛生上重要な課題となっている。日本においても 40 歳以上の 8.6% (約 530 万人) が COPD に罹患していると推定され、過去のたばこの消費量による長期的な影響と高齢化により、今後、さらに罹病率、有病率、死亡率が増加すると予想され、予後の改善には歩数も含めた身体活動性の向上が重要である。健康日本 21 (第 2 次) からは、国を挙げて発症予防と重症化予防に取り組む疾患として、がん、循環器疾患、糖尿病とともに、新たに COPD が加わった。新潟県下越地区においても、人間ドック受診健常者 25000 名/年の中で COPD が強く疑われる閉塞性換気障害が 1000 名/年いると推定される。新潟市における COPD 患者の現状、問題点を調査するとともに、地域医療連携を構築し、COPD に対応していくことが必要不可欠である。そこで、12 病院 (新潟大学医歯学総合病院、西新潟中央病院、新潟臨港病院、済生会新潟第二病院、新潟医療センター、木戸病院、新潟市民病院、信楽園病院、亀田第一病院、下越病院、南部郷総合病院、県立新発田病院)、18 開業医 (横田内科医院、中和内科医院、せきやクリニック、幸村医院、土田医院、本町いとう内科クリニック、中新潟クリニック、わかばやし内科クリニック、さとう内科クリニック、ほしの医院、五十嵐医院、田辺医院、こばやし内科クリニック、こなん内科クリニック、ふるしまクリニック、ひらた内科クリニック、金子内科医院、松田内科呼吸器科クリニック)、2 健診機関 (新潟県労働衛生医学協会、新潟県保健衛生センター) が加盟して新潟 COPD リンクを運営し、多施設共同で COPD に取り組むことが特色である。</p> <p>本研究の目的である①新潟市の COPD の現状を調査すること、②COPD 増悪による緊急入院の状況や問題点を明らかにすること。③これらを達成するために COPD 連携ファイルを作成し、患者が所持することでかかりつけ以外への即効性のある情報提供や地域医療連携に寄与し、新潟市の救急医療体制の維持・継続に貢献できるか、効果を検証した。</p> <p>新潟市の COPD の現状を包括的に調査するため、一般市民、介護職員へのアンケート調査を実施し、GOLD 日本委員会による COPD 認知度把握調査と比較を行った。その結果、COPD の認知度が低く、認知啓発活動の推進が必要と考えた。そのためには、医療機関の役割が大きく、テレビや新聞の影響も大きいと考えられた。</p> <p>次に医療従事者へのアンケート調査を実施した。患者教育・アドヒアランスの向上や、地域の開業医・病院の連携促進ならびに情報の共有化が必要と考えられた。一方で、SWAN ネットや新潟 COPD リンク、新潟医療圏病院群輪番制への要望は高くはないという結果であった。</p>

最後に、COPD 連携ファイルを作成し、新潟 COPD リンク加盟の 30 医療機関にて COPD 連携ファイルの運用を開始した。35 名の COPD 患者を登録し、年齢や喫煙歴、呼吸機能などの患者背景や吸入薬による治療状況、CAT やフレイルスコアなど現状把握可能なことを確認した。一方で、COPD リンクファイルの運用方法がわからない、加盟施設がわからない、医療従事者が患者の状況把握には簡便で有用であるが、患者側からは教育やセルフマネジメントにつながりにくい、多職種協働や医療連携が必要な重症患者が少ないという問題点が明らかとなった。顔の見える関係となりつつ、よりよい運用方法を模索するために、年 2 回研究会を開いて連携促進と COPD 連携ファイルの普及を行った。さらに、COPD 連携ファイルが多職種協働や医療連携が必要な患者向けの応用編となる内容に対して、患者教育やセルフマネジメントにもつながる軽・中等症患者へも適した、導入のハードルを下げる COPD 連携手帳が必要と結論に至った。新潟 COPD リンク加盟医療機関にて協力しながら COPD 連携手帳を新たに作成し、今後、運用していくこととした。

今回の研究を通じて、COPD は重要な疾患であるが認知度が低く、患者も軽症から最重症まで多彩であり、状況に応じたきめ細かい治療介入を多職種・多医療機関で協力して行っていくことの重要性が明らかとなった。今後は、新潟 COPD リンクを元に、COPD 手帳、COPD 連携ファイルを用いて、新潟市における COPD 患者が安心して質の高い医療を受けるとともに、地域医療連携を円滑に行うことで医療機関の負担軽減など、COPD へ包括的にアプローチを続けていく必要があると考えられた。